

# 小貝川堤防決壊の瞬間

撮影：倉田恒夫（石下町企画課） 文：田口雄作（環境地質部）  
Tsuneo KURATA Yuhaku TAGUTSCHI

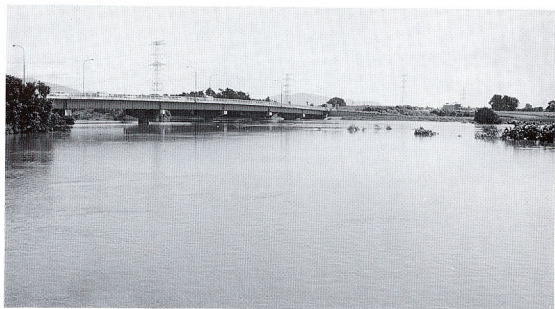


写真-1 8月6日8時50分頃 小貝川の洪水流は長峰橋付近で堤外地を満杯にして勢いよく流れています。この時点でこの地点の水位はすでに6.10mに達しています。



写真-2 9時頃 6日朝7時50分頃漏水が発見された豊田機場地先では消防団員等によって 土嚢の投げ込みや登・シート張りによる懸命の水防作業が行われています。



写真-3 9時10分頃 不気味な亀裂が堤防上を横切っているのが発見されました。

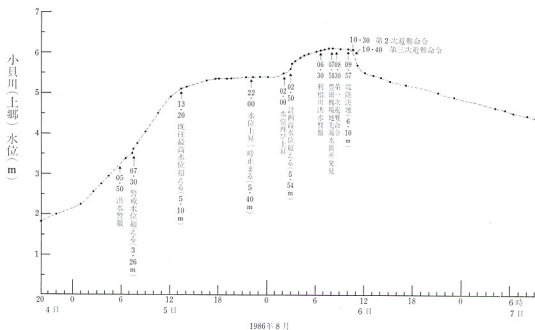


図-1 小貝川上郷(破堤地点)における目測による水位の経時変化  
(石下町管理課消防防災係の資料を基に筆者作成)



写真-4 堤内地の豊田自然種管南側脇の漏水はますます大きくなっていきます。堤防上では消防団員などが不安気にそれを見守っていますがどうすることもできません。



写真-5 漏水箇所はみるみるうちに拡大していきます。写真左上の看板に注目して下さい。



写真-6 漏水箇所はますます堤防本体へ拡大し 写真-5の看板も瞬時にして泥水の中に飲み込まれてしまいました。



写真-7 9時40分過ぎ 堤防下の道路にはっきりとした2本の亀裂が現れ その間の土塊は堤内地側へズリ下がってきました。

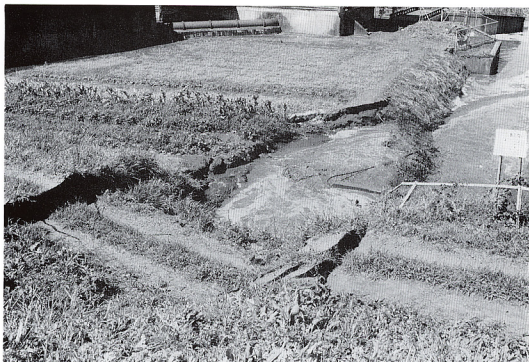


写真-8 9時45分頃 亀裂が広がり土地は明らかに沈み込み始めました。



写真-9 9時50分頃 必死の水防作業も空しく 堤外地満杯の水の勢いには勝てず ついに堤防がドドッと音をたてて崩れ始めました。



写真-10 9時57分 堤防が完全に決壊した決定的瞬間です。この写真によれば 堤防の決壊箇所比べて堤防下の漏水箇所が 下流側に若干ずれていることが明らかに読み取れます。



写真-11 押し寄せる洪水流によって、堤防の決壊幅は上流側（写真手前側）に どんどん広がっていきました。



写真-12 堤内地へ一気に流れ下る浸水流。正面の建物は豊田機場。



写真-13 10時15分頃 怒涛のように流れる浸水流は 瞬く間に水田や集落を飲み込んでいきました。



写真-14 10時20分頃 流れ込む洪水はもう止めようもありません。写真右上の水田は既に完全に冠水しています。堤防の決壊幅は最終的には約100mにも広がりました。



写真-15 13時頃 堤防決壊約3時間後の浸水状況。正面本豊田集落を一飲みにした浸水流は下流の水海道市（写真右）方向へどんどん拡大していきます。浸水流が流れ込んだ手前南北（左右）に流れる八間堀川は下流側の各所で二次氾濫をして被害をさらに大きくしました（写真提供 第一航業株式会社）。